

## 近畿ブロック

## 1.プログラム詳細

11月15日(水)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(奈良県)
10:40～11:40	60	講演① 帝塚山大学 客員教授 蓮花 一己 「子どもの交通安全について」
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 東京都市大学 准教授 稲垣 具志 「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	10	活動事例発表
15:00～15:40	90	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

## 2.講義等の記録

### ■講演①

帝塚山大学 客員教授 蓮花 一己

「子どもの交通安全について」

### 1. 子どもの交通事故と対策

#### 子どもの死者数の推移

統計的にみると子どもの交通事故死亡者も激減している

平成元年 623 人→令和 4 年 28 人

#### 子どもの事故の特徴

- ・7 歳、小学校 1 年生の交通事故が突出して高い
- ・子どもの事故の特徴として日中に多く、男の子の方が事故に遭いやすい

⇒【対策】家庭でのしつけが大事

幼児は大人の責任（未就学児のうちにきちんと教える）

- ーチャイルドシート利用
- ー歩行時の手つなぎ
- ー遊び方（場所、時間、行為の良し悪しなど）

小学生は活発になる

- ー行動範囲の拡大
- ー自転車利用
- ーリスクテイキング（危ない行動をとる）

#### 子どもの事故 2010 年以降の動向ー最近の事故例から行政の対応の振り返りー

(1) 京都府亀岡市の事故（2012 年 4 月）

集団登校の児童と保護者が被害

⇒【対策】通学路の緊急安全対策

通学路交通安全プログラムでの対策

(2) 滋賀県大津市の事故（2019 年 5 月）

保育園の集団で散歩中の園児被害

⇒【対策】キッズ・ゾーンの設置

交差点対策：交差点への防護柵やポールを設置

エリア対策：キッズ・ゾーンの設定

ー保育所等の半径 500m を原則として設置

### (3) 千葉県八街市の集団登校時の事故 (2021 年 6 月)

集団登校の児童が被害

【事故の状況】ドライバー：懲役 14 年の実刑判決 (危険運転致死傷罪)

日常的に飲酒運転、会社は運送業だが白ナンバー

⇒その後、安全運転管理者事業所でアルコール検知義務化が進む。

【道路環境】歩道、ガードレール、歩道、ガードレール、路側線等がない

⇒事故現場では、その後、ガードレール、路側線が設置

### 事故をゼロにする「通学路 Vision Zero」対策

通学路の道路安全対策のみでは限界がある

⇒小学校での交通教育、保護者との連携、児童歩行時の支援

(進行中：千葉工大・赤羽弘和教授、ホンダの協力)

⇒スクールバスの運用 (地域のモビリティ資源の活用、福祉サービス車両や企業の送迎バス等) (長期対策)

## 2. 横断歩道をめぐる諸問題

「歩行者が横断歩道を渡ろうとしている時は、一時停止しなければならない」

⇒覚えていない (知らない) 人が多い

ダイヤモンドの認知度が低い：2,600 人にアンケートを実施→6 割が知らない回答

ダイヤモンドは、信号機のない横断歩道や自転車横断帯の手前 30~50 メートルの路面に書かれたダイヤモンド形の道路標示

### JAF による横断歩道での都道府県別停止率

2020 1 位 長野県 72.4% 全国平均 21.3%

2022 1 位 長野県 82.9% 全国平均 39.8%

2023 1 位 長野県 84.4% 全国平均 45.1%

⇒横断歩道停止率公表後の動き

—議会での議員による一般質問

埼玉県：2019 年 9 月議会議員質問—県警本部長回答

—自治体・民間団体による調査・対策

富山市：「横断歩道ルール・マナー定着事業」

青森県：ムジコ・クリエイト社を中心とする運動

—各府県別警察本部での取組 (取り締まり、啓発活動)

京都府警 (「安全横断対策委員会」)

大阪府警（「ハンドサイン運動」「啓発キャラ」）

### 警察による指導の変遷

当初：道路を横断する際は、手を上げて合図をし、車が停止するのを確認してから横断するよう教育が行われていた

昭和 53 年：教則が改正され、信号機のない場所を横断する方法として、「車が近づいているときは、通り過ぎるまで待ちます。」とされた

令和 3 年：信号機のない場所で横断するときは、手を上げるなどして運転者に対して横断する意思を明確に伝えるよう規定された（合図を出す）

⇒「動作による明確な意思表示」が必要

「運転者への合図とアイコンタクトの手段としてさりげなく手を使う」ことが有効であるとし、具体的には、手のひらと顔を周囲の運転者の方向に向けて合図をすること、止まってくれた運転者とのアイコンタクトを通じて、道路の譲り合いの確認をすること、を考案し、従来の横断要領に加えた

### 【子どもの横断方法】京都府警モデル

止まって→よく見て→合図して車が止まるのを待つ→止まった運転者とアイコンタクト（確認）→渡ろう

⇒警察官だけでなく、幼稚園教諭や保育士の方々、ひいては保護者が教育を実施することを前提として準備がなされた

### 横断歩道の問題をより広い枠組みで

・JAF による「横断歩道の都道府県別停止率」の公表は、歩行者優先の道づくりを推進する起爆剤になった

・この機運をさらに高めて、「生活道路での事故防止」あるいは「通学路での事故ゼロ」に繋げるために何をすべきか？

⇒工学、心理学、情報学、医学等の学際協働、地域の自治体や団体との地域連携が重要

## 3. 子どもへの交通教育

・鈴鹿での交通教育－ホンダの「あやとりい」

小学 3 年生への教育－学校の先生、企業も協力

校区内にどんな交通標識があったかなど、グループワーク方式で教える

・冊子「子どもを交通事故からいかに守るか」－家庭・保護者向けの教材

<構成>

- 1) 車内でのチャイルドシート着用  
乗降時順序
- 2) 歩行時の手つなぎ・歩き方  
車の合図や特性
- 3) 遊び場所・遊び方  
⇒家庭でのしつけによる安全習慣をつくる

#### **シートベルトは命を守ります**

- ・事故の衝撃は10G（体重の10倍）を超える時も
- ・チャイルドシートを正しく使用していないと、死亡率が約5.3倍も高くなる

#### **ジュニアシート着用推進の活動（JAF 佐賀支部）**

2021年度にふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを実施し、114台のジュニアシートを寄贈

#### **保護者がシートベルトについて知らない**

- ・シートベルトの効果について知らない
- ・チャイルドシートとジュニアシートについて知らない

⇒知識や取り組みについて知ってもらうことが大切

#### **乗り降りする際の事故を防ぐー乗るとき**

乗車時の3つのステップを徹底する

（子どもを一人にしない→子どもを車に乗せてから→自分が乗る）

#### **乗り降りする際の事故を防ぐー降りるとき**

降車時の3ステップを徹底する

（親が先に降りる→安全を確認しつつ→子どもを降ろす）

#### **4. 道路安全対策との連携**

- ・速度抑制のためのハンプ
- ・スムーズ横断歩道（沖縄県浦添市）
- ・カラー舗装と注意喚起路面標示
- ・横断歩道の電光掲示板（埼玉県警）

### 子どもの交通事故をいかにしてゼロにするか？

事故を丁寧に分析し、子どもの行動やドライバーの行動を調べ、対策を実行する

そのためには行政と学校・園関係者、保護者、地域関係者の協力が必要

⇒交通ボランティア、交通教育指導者の参加が望まれる

## ■講演②

東京都市大学 准教授 稲垣 具志

### 「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」

#### 効果的な自転車安全利用の推進

自転車の安全利用推進ほど難しいものはない

- ・自転車はとんでもなく主観的な乗り物
- ⇒乗り物が変わると行動選択が変わる  
(車では信号を守る、自転車では守らない)

#### 自転車に乗る人の意識を変えるためにはどうすればよいのか？

- ・客観的なデータ（事故・違反・ヒヤリハット・ドライブレコーダー）によるアプローチ

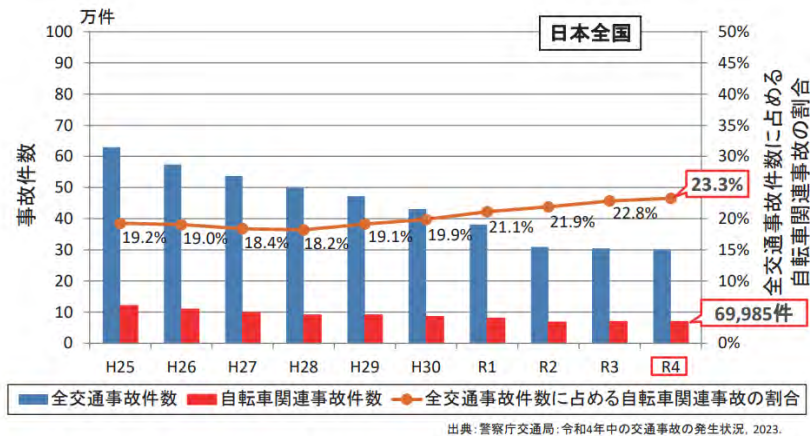
#### 事故防止のための『交通社会』の理解とは？

<交通安全意識の3レベル>

- ① ルールを知る
- ② ルールを守る
- ③ 相手を知る

→相手を知ることによって自分の行動を見直す

#### 自転車関連事故の推移



- ・全交通事故件数は過去10年で減少傾向にある
- ・新型コロナの影響により近年は横這い
- ・自転車事故の割合は（全国で20%程度、5件に1件は自転車事故）
- ・奈良県は18%（東京都は45%）
- ⇒交通事故のデータは全て人身事故（物損事故はカウントしない）



自転車事故の発生場所：交差点で事故に遭いやすい（70%近く）

#### パターン①細街路同士の交差点

- ・自転車事故の約5割～6割は出会い頭
- ・信号のない交差点で多発

【問題①】不適切な右左折：自転車の右側通行、ショートカット

【問題②】一時不停止：自転車運転者の一時停止無視率80%

#### 世田谷区玉川の事例

商店街付近の交差点に近づく自転車を観測→右折時の違反率が高くなる傾向にあった（どんな人にも違反傾向あり）

⇒現場で観察し、事実を具体的に知ることの重要性

#### パターン②幹線道路動詞の交差点

信号交差点では→自転車の横断時に事故が多発している

⇒自転車が優先されることを過信しない、ドライバーに気づいてもらっているか注意

#### パターン③幹線道路と細街路との交差点

自転車の通行位置による事故率の違い（都内のある幹線道路における事故）

自動車から見て左側から出てくる自転車：車道を逆走する自転車と民地寄りを通行する自転車の事故率がとても高い

- ・自動車から見て左側の方がよける余裕がない
- ・ドライバーの注意が右側へ片寄りがち（注意資源の片寄り）

#### まとめ 自転車問題の解決に向けたポイント

##### 1. 自転車の交通問題は、主観的な要素が多い

- ・データを上手に利用した客観的アプローチ
- ・ヒヤリハット映像による他者からの視点

##### 2. 自転車の交通問題は、広域的な課題

- ・安全利用を推進するマンパワーが必要
- ・ボランティア、自治会、PTA等地域のちから

##### 3. 自転車の交通問題は、地域性が強い

- ・地域の実情を理解している市民のノウハウ

- ・地域で日常的に自転車を利用する人の説得力
- ・利用者の立場にとって最適な伝達方法

## ■活動事例発表

### 奈良県 大和郡山市役所 市民安全課

皆さんこんにちは。大和郡山市 市民生活課より参りました交通指導員です。どうぞ宜しくお願いします。大和郡山市ですが、奈良県の北西部に位置しており市内には国道24号線、25号線と大きな国道があります。西名阪・京奈和道と高速道路もあります。大きな幹線道路がある一方で城下町なので細い道や一方通行の道もあります。私たちは大和郡山市の幼稚園や保育園やこども園等、小学校は11か所、中学校は5か所を回らせて頂いております。大和郡山市にお住まいの小さなお子さんは、この交通安全教室を見てもらっています。今日は、その中で主に幼稚園や未就学児、親子向けに手作りで行っている交通安全教室を見て頂ければと思います。

(手作りの自動販売機やイラストを使い、信号の話や標識について楽しく学ぶことを目的にした交通安全教室の実演)

### 京都市 右京区交通安全女性の会

#### 細野 嘉子

私達、京都女性の会は昭和55年に結成されました。交通事故防止には家庭における女性の役割が非常に大きいことから女性の組織を作ってほしいということから結成されました。では、活動事例の紹介をさせていただきます。

カラーガード帯の結成。右京警察署で厳しい指導を受け、旗や衣装などは自分たちで作りました。新聞や警察署の機関誌にも取り上げていただきまして、安全運動のスタート式では、京都駅で演技し、河原町でパレードも行いました。

次に、浴衣を着用しながらの啓発運動(高齢者宅訪問活動)です。夏には堅苦しい制服を脱いで、浴衣を着て高齢者宅を訪問しました。女性ならではのやわらかい活動です。コロナでしばらく行っていませんでしたが、今年はとと思っていましたが、連日の猛暑で実施できませんでした。

続きまして、バレンタイン作戦。男女関係なく、チョコレートと一緒に、ちょこっと交通安全もお届けしました。いくつになってもチョコレートを貰うのは嬉しいものです。

サンタレディ。クリスマスには、サンタとサンタレディが高齢者宅を訪問しました。もう少し若かったらミニスカートでも良かったのですが、何分無理がありまして赤いジャンパーを加工して使用しています。この活動は、嵐電にも協力いただきこの姿でも電車の中で啓発させていただきました。

地藏盆での交通安全紙芝居。京都では地藏盆が各町内にあります。警察には各町内会から交通安全紙芝居に来てほしい、と依頼があります。2組に分かれて朝から何日間かけて回ります。紙芝居と一緒に交通クイズもやります。クイズも自分たちで考えるので準備が大変です。次、幼稚園での交通教室。5月には新入園児対象に正しい横断歩道の渡り方、手を挙げての合図横断など覚えてもらいます。また3月には卒園児に対して、園を出て曲がり角の

安全確認や信号の渡り方など園外指導をします。もちろん警察官と一緒にです。

新一年生半日入学。次年度入学する児童が体験入学します。保護者が講堂で話を聞いている間、教室で交通安全の紙芝居を見せます。みんな楽しく聞いてくれます。

4年生の自転車免許更新。京都府で行っている事業で、授業時間に行います。学科テストがあり、私達が実技コース、技術コースの各ポイントで採点します。もちろん私たちは自転車免許指導員の研修を受けており、京都府より指導員証明書ももらっています。子どもたちは親から自転車が乗れるように教えてもらっていますが、正しい自転車の乗り方やルールは教えてもらってないので困ったものです。点数に応じて本部から小学校卒業まで有効の自転車免許が発行されます。その他交通安全漫才や自分たちで考えた寸劇、手作りの着ぐるみのコントなど季節や行事をうまく取り入れた活動を行っています。自分たちも楽しみながら活動しています。

### 滋賀県交通安全女性団体連合会 会長／副会長

小崎 富美子／宮田 君子

私たち滋賀県交通安全女性団体連合会は、平成3年に設立30年を迎えました。令和4年には長年の交通安全活動が認められて滋賀県知事より感謝状を頂いております。

連合会の主な活動として色々な活動を行っていますが、特に力を入れているのが、高齢者世帯訪問事業です。県内で毎年5,000件という多くの数を1件1件訪問し、30年近く続けている事業です。これからも力を入れていきたいと思っております。次に、指導者研修会ですが、これは連合会が一堂に会して行う行事です。講師を招き、それぞれの地域の事例発表などを行い、地域に持ち帰り、それを活かす目的で行っています。コロナ期間中は分散型で開催しました。毎回150名の参加者で行っています。

交通安全啓発活動について説明します。この写真は県警のマスコットの「けいたくん」といい、一緒に啓発活動を行っています。七夕の啓発では、駅で交通安全に関して短冊を書いてももらっています。ハロウィンの啓発では、警察署長も参加していただいております。滋賀県内の地域とも一緒に活動を行っています。

30周年記念事業ですが、春の交通安全運動のチラシを作成しました。また、私たちと一緒に活動する機会の多い警察官ですが、警察学校へも視察させていただきました。それから、30周年記念ということで、「シトラスリボンプロジェクト」の啓発を行いました。「シトラスリボンプロジェクト」はコロナ禍で生まれた偏見や差別を耳にした愛媛県の有志が作ったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみシトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴが表現する3つの和は、地域、家庭、職場(学校)を表しています。このプロジェクトの趣旨に賛同し、県下に一斉配布をしてもらいました。また、30周年誌を作成しました。

最後に、当連合会が発足時には交通事故死亡者が181人だったのが、令和4年は38人まで減少させることができました。これからも事故ゼロを目指して参ります。ご清聴ありがとうございます。

うございました。

## 大阪府母と子の交通安全クラブ連合会 会長

### 河田 英子

大阪府の交通事故はここ 10 年間でワースト 5 から上がったことはございません。今年もワースト 1 でございます。昭和 55 年に「交通安全は家庭から」をコンセプトに子どもたちを交通事故から守り、命を大切にすることを目的に昭和 55 年 9 月に設立されました。

主な活動としましては、春の全国交通安全運動、交通安全母親活動指導者研修、交通安全キャラバン隊、三世代交流みんなの安全教室です。春の全国交通安全運動では、白バイ隊や音楽隊が出てきて、とても楽しい雰囲気の中で、子どもたちは楽しみながら学んでいます。交通安全とは命を大切にすることなのだということを学びます。ここ数年はコロナの影響でユーチューブ動画の配信をしていましたが、今年は大阪城公園の音楽堂で行われ、子どもたちも大変喜びました。

次に、交通安全母親活動指導者研修会です。以前は専業主婦が多かったので沢山の方が集まってくれたのですが、今はお仕事をされている方が増えて参加者も少なくなってきましたが、それでも熱心に勉強してくださっています。保護者の方を家庭や地域における交通安全指導者として育成することを目的にしています。府警による交通安全教室の実施、大阪府交通災害遺族会の方の講話をしていただきました。

交通安全キャラバン隊ですが、各幼稚園、保育園にお邪魔して交通安全のルールをきちんと教えています。以前は全国組織で全県を回っていましたが、現在は自治体単位で活動しており、交通安全意識の高揚を目的に活動しています。

最後に三世代交流みんなの安全教室ですが、高齢者の事故が増えている現状を踏まえてみんなで交通安全を学ぼうということで楽しく学んでいます。また、その他の活動として交通安全ストップ体操です。令和 2 年度に連合会が 40 周年を迎え、これを記念して、交通安全ストップ体操 CD を作成し、会員の皆様に配布しました。楽しいことは伝わりやすいです。現在もお、交通事故でたくさんの方が亡くなっています。命は一つです。これからも頑張っています。ありがとうございました。

## 伊丹市都市交通部 交通政策室 都市安全企画課 交通安全指導員

### 樋口 雅子

伊丹市役所都市安全課交通指導員の樋口と申します。今から伊丹市の交通安全に関わる取り組みについてと題して主に自転車事故減少のために行った取り組みについて発表します。初めに伊丹市の概要ですが、兵庫県南東部に位置し、人口は 196,250 人で伊丹空港がある街としても知られており、尼崎、西宮、宝塚、大坂の池田、豊中と隣接しているので、主要道路が多く交差しています。地形は平坦で坂道がないため、徒歩や自転車で移動しやすい

のが特徴です。平成30年から令和4年は、市内で多くの交通事故が発生しました。特に自転車事故の構成率が他市と比べて高いため、自転車事故減少に向けた取り組みに重点をおいています。令和2年からは自転車事故自体は減少しているのですが、まだ4割ぐらいを占めており、継続して様々な取り組みをしております。

主な取り組みとしまして大きく4つあります。街頭啓発活動、交通安全教室、イベント、広報等周知活動の4つの活動です。1つ目の街頭啓発活動では交通事故多発地点を中心に自転車の安全利用を伊丹警察と共同で市民の方に呼びかけています。令和4年度は年間45回行いました。2つ目の交通安全教室ですが、市内の幼稚園、保育園、高等学校を当課で、小学校、中学校を教育委員会とで分けて実施しています。地域や企業、団体への交通安全教室も実施しています。令和4年度は70回行っています。3つ目は参加者が楽しみながら交通安全を学べる機会としてイベントを実施しています。子供向けの企画を用意し、令和4年度は3回実施しています。4つ目の広報等周知活動では、広報誌を通じて交通安全に係る情報を随時更新し市民の方々に届けています。

街頭啓発活動ですが、過去のデータを元に事故多発地点を中心に実施しています。自転車レーンの活用、信号のない横断歩道では歩行者優先の呼びかけ、自転車にリフレクターを取り付ける活動も行っています。その他にも自転車の安全利用について啓発するパトロール活動も実施しています。

交通安全教室についてです。コロナ禍では実施回数は減ったのですが、教室の指導は職員、交通安全指導員、警察官で行っています。教室の内容についてですが、幼児交通安全教室では市内の5歳児を対象に幼稚園、保育園で実施しています。コロナ禍に入ってからにはホンダのDVDを教材として使い、飛び出しが危ないことを伝えています。訓練後は伊丹市のマスコット「たみまる」のついた反射材をプレゼントしています。次に、企業、団体、高校での交通安全教室です。相手先の要望に応じて内容を構成し、安全に対する関心を高めてもらえるような教室を行っています。飲酒ゴーグルを使った歩行体験、自転車シミュレーター体験等も行いました。続いて、地域での自転車安全教室についてですが、各地区で毎年行われている自主防災訓練の中で依頼のあった地区で行っています。自転車ハザードマップを利用して、自転車事故発生地点や注意すべきポイントをお知らせしています。小学生に対しては自転車の走行訓練を行いました。

次に、イベントで行った啓発活動についてです。令和3年度からおこなった市スポーツセンターのイベント「キッズフェス」で交通安全教室を実施しています。親子で楽しんで学んでもらえる内容を毎年考えています。またイオンモールでも年に1~2回啓発活動を行っています。こちらでは伊丹警察署が行う自転車シミュレーターをはじめ、JAFの協力で子ども免許証の発行も行っています。市からは、交通安全の〇×クイズやDVD教材を使って自転車の安全な乗り方を指導しました。

最後に、広報等周知活動についてです。より多くの方に自転車事故の情報を知らせ、交通事故防止のための注意点を知らせようと令和3年に小学校区別自転車ハザードマップ

を作成し、今年10月に更新もしました。自転車事故発生地点や事故多発地点の特徴を記しています。また自転車安全啓発動画を作成しました。私たちが交通安全の啓発を行う上で特に重要だと考えているのは、正しい交通ルールの理解と遵守を呼びかけること、対象者の年齢や地域の実情に応じて、「なぜそうするのか」を分かりやすく伝えること、危険を予測し、事故に遭わないための行動を周知することの3点です。「安全・安心なまち伊丹」を目指して、市民の声に耳を傾け、交通安全に対する意識を高めてもらえるような活動をこれからも工夫し、考えていきたいと思っております。以上で伊丹市の発表を終了します。

## 和歌山県 環境生活部 県民局県民生活課

### 山出 武文

和歌山県 環境生活部 県民局県民生活課の山出と申します。平成13年に和歌山県警に拝命し、警察官として交通安全業務に携わっておりましたが、令和4年から和歌山県庁に出向し、現在は県庁職員の立場で交通安全業務を担当しています。本日は和歌山県が行っている交通安全活動について発表いたします。まずはサイン+サンクス運動です。先ほど蓮花先生からもありましたが、信号機のない横断歩道における車の一時停止率が平成30年和歌山県では1.4%と大変低い調査結果でした。現在は様々な協力により上昇しています。そのような状況の中始めたのが、サイン+サンクス運動です。運転者に横断歩行者保護の意識を向上させ、横断歩行者事故を抑止する取組です。ドライバーに横断する意思を明確に伝えるサインと「ありがとう」の気持ちを伝えるサンクスを組み合わせました。サイン+サンクス運動を行うにあたって行った和歌山県での調査では、信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況で手を挙げない場合は5%、手を挙げた場合は85%で実に17倍の差がでました。横断時に手を挙げるという行為は他府県でも取り組んでおられると思いますが、和歌山県ではそれに加えてサンクスにも重点的に取り組んでいます。

その理由としては、歩行者は、会釈などで「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えるため、横断歩道を渡る前にドライバーとアイコンタクトする習慣が身につくこと、安全確認の徹底を図ることができること、ドライバーは横断歩道の手前で一時停止することが義務であるが、感謝の意を伝えられることで、止まって良かったという心地よさから、次も止まろうという意識の継続性に繋がること、児童等においては、横断歩道の手前で車が止まってくれたという経験を重ねることで、自身がドライバーとなった際に横断歩道における歩行者優先の意識が根付くと期待されているからです。令和5年の調査では、30.1%と和歌山県は全国的には低い状況ですが、これからも交通ボランティアの方々と推進し横断歩道における交通事故防止に務めたいと思っております。

次に和歌山県飲酒運転の根絶に関する条例についてです。この条例は平成29年に交通事故に占める飲酒率が全国ワースト1位と不名誉な結果になったことから施行されました。飲酒運転根絶に特化した条例を制定しているのは、全国で11道府県であり、罰則がついているのは、福岡県、千葉県、和歌山県の3県のみです。条例の特徴としましては、5年以内

に再度飲酒運転で検挙された違反者（2回目）に対し、アルコール依存症に関する受診を義務化し、違反者が受診しなかった場合に受診命令を発出します。飲食店の業者には飲酒運転防止措置を講じることを義務化し、公安委員会の立ち入りや指示に従わない場合、店名などの公表や指示書の掲示を命令されます。現在まで14名の方に対してアルコール依存症の受診命令を行いました。そのうち4名の方がアルコール依存症と診断され治療を行っており、飲酒運転を繰り返させないために重要な対策であると考えます。飲酒運転は悪質・危険な行為であります。和歌山県は引き続き飲酒運転の根絶に務めていきます。和歌山県からの発表は以上になります。

## ■活動事例発表を元にした意見交換会

東京都市大学 准教授

稲垣 具志

稲垣先生：改めましてこんにちは、東京都市大学の稲垣です。ここから意見交換会を進めて参ります。是非積極的にご発言いただきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

では会場にいらっしゃる方よりお願いします。

●：大阪の連合会です。本日はありがとうございます。とても疑問に思うことがありまして、1981年から2年間アメリカの大学院に行っており、アメリカはとても広いので車は絶対に要ります。そこで1つ目の質問は、どうしてこの国の真似をして車を沢山走らせなくてはならないのか。2点目は今、私達は交通事故をどうして防いだらよいのか。先日、福井県を訪れましたが、自然が破壊されていない、自転車も走りやすい、本当に命を大切にすることは自然環境を大切にすることだと思えます。大阪はワースト1ですので何とか打開したいのですが、道は狭いのに車はどんどん大きくなり、そういった点をどうやって改善したらよいのか。日本は自動車の数が多すぎます。自然破壊をしないで自動車がもっと楽に走れるような道路を作ってほしい。そして、24時間以内の死亡は交通事故死としてカウントしないのはおかしい、この3点です。アドバイスください。

稲垣先生：1つ目の車の件ですが、これから人口が減っていく中で、駅前中心としたエリアで都市の再生を図っていく動きがありますが、どれだけ歩行者や自転車に対しての生活空間を優先して作っていくのがこれからのポイントだと思います。不必要な車利用をいかに抑えていくかということも考えていく必要があります。歩くことの大切さ、健康寿命を伸ばすということも大事だと思います。交通事故死者数のカウントの件ですが、日本だけが24時間で切っているのですが、データとして24時間を経過しての死亡者数は把握しているとは思いますが、これからもっと細かい分析が必要だとは思いますが、これに関連して他のみなさんから何かございますか。

●：エビデンスで嘘をつく、統計で嘘をつくという本を見たことがあるのですが、どこまでソースを信じていいのか、データを信じてよいのか。先ほどの先生の900件の事故を見たということですが、先生の主観はないのか、客観的な事実なのでしょうか。



稲垣先生：これに関連して他の方向かありますか。まず先に申し上げますと、私の見たヒヤリハットの分析は、私の主観は一切入っていません。交通安全は人の命に係わることで、これに携わる専門家はプロ意識を持ってやっております。統計では分からない、実際の現場で見ることは沢山あると思います。そのため交通ボランティアの皆さんの存在は欠かせないと思います。他はいかかでしょうか。

●：奈良県の地域交通安全推進委員です。先ほど車を減らした方がよい、という話がありましたが、奈良県ですと車を減らすことはできません。車がなかったらどうにもなりません。一律に車を減らせ、というよりも地域性に合わせてモビリティをどう確保していくか。また現在の日本は、高齢者、人口減、外国人等の交通マナーの問題や新しいモビリティの増加の問題にどう対応していくのが大切ではないかと思えます。

稲垣先生：交通安全を取り巻く環境は目まぐるしく変わっています。またそのスピードも早くなっています。社会情勢や地域特性を考えて交通安全を考えていかないといけないと思います。交通ボランティアの方々は行政と良好な関係を構築しているかとおもいますので、行政の持つ情報は共有したほうがよいでしょう。このことに関して何かありますか。

●：奈良県交通安全母の会です。色々とお話ありがとうございました。いかにこのボランティア活動を楽しんでいくか。今お配りしましたが、私どもで今年作った冷蔵庫に貼れるランドセルです。これを皆さんにお配りします。各地域の母の会の役員が毎月1回集まりまして情報交換をしながら活動しています。

稲垣先生：ありがとうございます。これいいですね。ランドセルがついているクリップですよ。今回近畿ブロックの皆さんにお話を聞いていて思ったのですが、大和郡山市の皆さんのいかに児童の気持ちをこちらに向けさせるのが、本当にリアリティある手作りの自動販売機で、ボタンを押すと本当に落ちるのですね。すごいと思いました。このように多様な立場の方々に対する心の振り向かせ方というのを良く考えておられるなと思いました。本当にホスピタリティ溢れる近畿だなと思いました。非常に尊敬の念を感じます。他いかがですか。

●：奈良県交通安全母の会です。今日はありがとうございました。皆さんに教えて頂きたいことがございます。ヘルメットの着用率が上がらないという問題です。自転車を下りた後は、持ち歩かないとならないので、邪魔になり、そこをクリアしないとなかなか着用率は上がらないのかなと。皆さんどうされているのかお聞きしたいです。今は折り畳みのヘルメットもあるようですが高額みたいです。何か良い案ありますか。

稲垣先生：ありがとうございます。皆さん、いかがですか。自転車のヘルメットの着用率を上げるために苦労されていると思いますが、邪魔になる、被りたくないということに対して何か工夫されているところはありますか。

内閣府：9月まで東京の上野警察署で交通課長をしておりました。東京都もなかなかヘルメットを被ってもらえない、ということで、よくやっていたのが、ダイヤルロックです。100均とかで売っているものをキャンペーンでお配りしていました。1個100円程度です。

それほど負担にはならないです。このようなことを都内で行っていますので、ご参考にさせていただければと思います。

稲垣先生：ありがとうございます。貴重な情報を頂きました。ダイヤルロックというのは、自転車にヘルメットを繋いでおくものですよね。ヘルメットを配布する際、一緒にセットで渡すとかですかね。是非参考にしてみてください。他何かありますか、ヘルメットの着用率を上げるための工夫など。

●：伊丹市です。交通安全教室やイベントで帽子型のヘルメットとスポーツタイプのヘルメットを実際に持って行って触ってもらったり、被ったりしてもらっています。また、市の職員は公務の場合、絶対被ることになっています。市民の方に「被らないと」と意識を持ってもらえればと思います。

稲垣先生：実際に展示して触ってもらうのはいいですね。警察官は必ず被っていますね。他にありますか。

●：滋賀県庁道路保全課です。私も滋賀県警から派遣できています。ヘルメットの件で今取り組んでいることを紹介したいと思います。中学生は被っているのですが、高校に入ったとたんには被らなくなりますね。中々改善されません。まずは高校生の着用率を上げることを教育委員会と話しています。県内のモデル校を決めてやってみたり、生徒自身がポスター作成をしたりと模索しています。

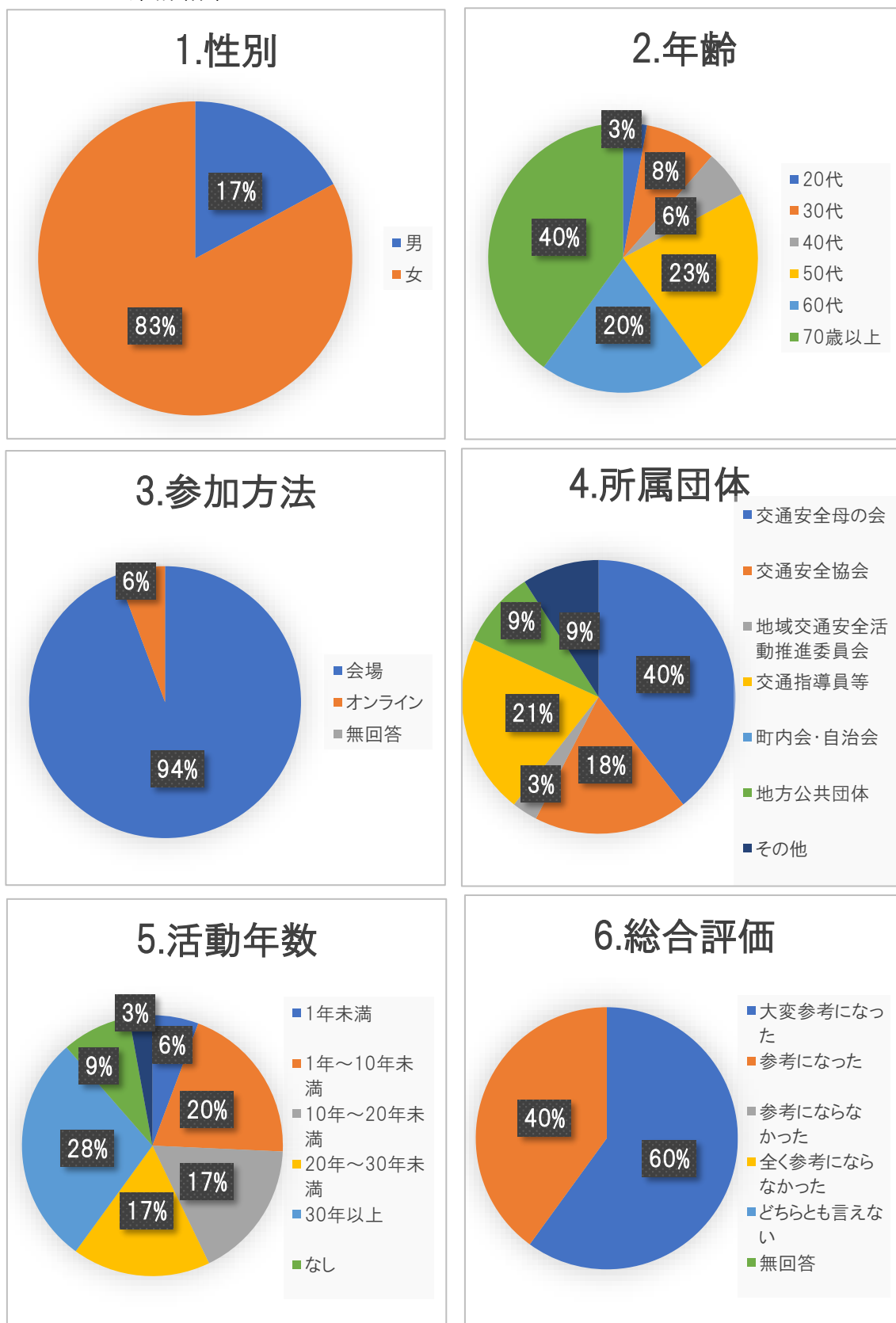
稲垣先生：非常に説得力がありましたね。高校生になった瞬間にヘルメット脱ぎ始めますよね。それでは時間も無くなって参りましたが、他にいかがでしょうか。

●：奈良県です。今日はみなさんありがとうございます。ヘルメットの取り組みで奈良県の取り組みを紹介します。年内の自転車通学の公立高校生全員にダイヤルロックを配布しています。ヘルメット着用の啓発のイベントを11月23日に行います。他府県の方もぜひお越しください。ヘルメットを格好よく被って行こうよ、ということで吉本の芸人も参加します。宜しく願い致します。

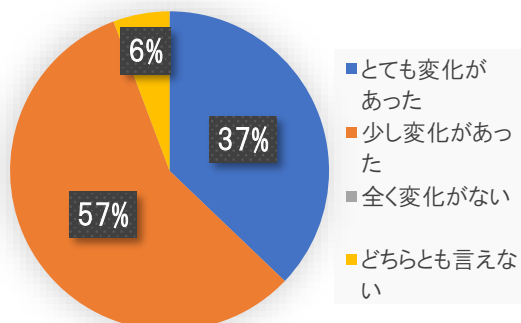
## ■講評

皆様様々な観点からご意見いただきましてありがとうございました。都市整備、道路空間の在り方ですとか、交通ボランティアの方々が現場で活動されていることの重要性を改めて感じるどころです。地域性の基づいた、或いは目まぐるしく変わる社会情勢に合わせた、交通安全の啓発の在り方を考えないといけない、というご指摘も頂いています。多様な方々に合わせた交通安全啓発のための歩み寄り方もあるでしょう。またヘルメット等の重要性を再認識しました。来年私がこの場に来るかどうかは分かりませんが、1年後に皆様の活動がどのように麗しくなっているかを心より期待しながら、意見交換会を終了いたします。

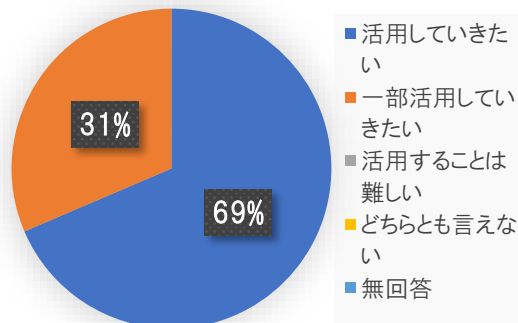
### 3.アンケート集計結果



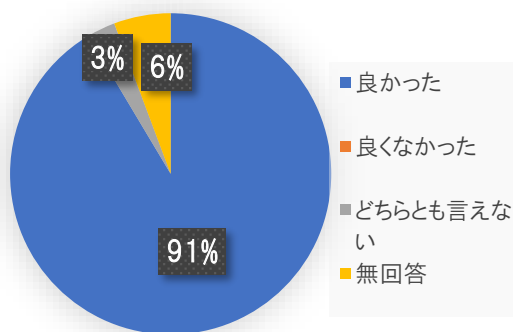
## 7.意識の変化



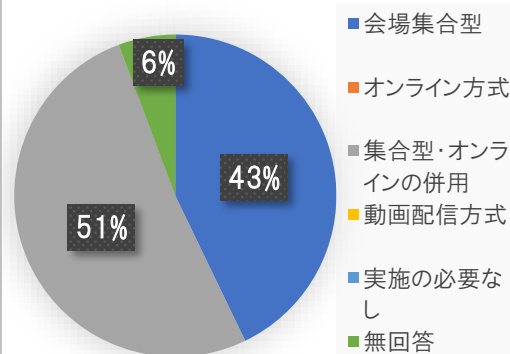
## 8.講義内容の活用



## 9.実施方法



## 10.来年度の実施方法



### ⑪今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・私のところでは他府県からの運転手の事故が多い
- ・自転車ヘルメット着用率の向上について
- ・指導員の育成について
- ・高齢者に対する交通安全指導についてお願いしたいです
- ・団体の特性をとらえた活動を教えてください。地方・安全協会・母の会
- ・ヘルメットを着用することをもっと多くの方に啓発していく方法について知りたいです
- ・子どもの自転車交通教育について
- ・多動児、自閉症スペクトラム等、児童の指導方法が知りたい
- ・電動キックボードに対する事故防止の取り組みや啓発事例

### ⑫本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・異業種で安全活動に取り組む方との交流や連携で活動の幅を広げる
- ・多くの意見を聞かせていただいて有意義でした。このような機会がありがたいです
- ・近隣自治体で交通安全教室の見学等をしたい
- ・大変良かったと思います

#### ⑬本講習会の運営、スタッフについて

- ・どんな良い講習会でも時間はきちんと守ってください。遠くから来ている方のことも考えてください
- ・よかった
- ・テーブルに2人掛けの方がよかった（荷物置場がない）（感染対策）
- ・座席にゆとりがあったと思いますので、1机2名で配席したほうが良かったかと思います
- ・近畿のそれぞれの県からの発表をスムーズに進行してくださりありがとうございました
- ・スムーズな講習会運営にご尽力いただきありがとうございました
- ・大阪は話が長すぎる。同じ内容の繰り返しであきてしまった
- ・発表の際には画面共有できず、接続できなかったのですがスタッフの方が臨機応変にすぐ対応していただいたおかげで無事発表を行うことができました。どうもありがとうございました

#### ⑭その他ご意見

- ・お弁当にお茶を付けていただきたい。自販機はすべて冷たいものばかりであった
- ・ありがとうございました
- ・以前のようにもっとたくさんの方から参加して実施していただけると大変うれしいです
- ・従来通り、会場集合型の方が親しみ、実感があってよいと思う。映像を通してではAIのロボットのような
- ・交通事故死亡者の方への黙とうなど、初めにしてほしいです
- ・たいへんお世話になり、ありがとうございました
- ・蓮花先生や稲垣先生のお話を含め、日ごろなかなか知ることができないことをたくさん学ばせていただきました。ありがとうございました
- ・概ね良です
- ・活動事例をもとにした意見交換会の機会でしたのに各発表された府県のスライドでは伝えきれていない部分を質問できず、反省しています。意見交換会の機会ですので何かテーマ、資料も先に頂いているのであらかじめ質問させていただけるような紙面やメールがあったら、より参考になったように思いました。

#### 4.写真

##### 【近畿ブロック】



開会挨拶 内閣府 毛利参事官補佐



講演 蓮花先生



講演 稲垣先生



活動事例発表



意見交換会



意見交換会

# 中国・四国ブロック

## 1.プログラム詳細

10月20日(金)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	15	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(香川県)
10:40～11:40	60	講演① 一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長 彦坂 誠 「自転車の交通安全について」
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子 「子どもを交通事故から守るために」
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	20	講評(コーディネーター) 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了



## 2.講義等の記録

### ■講演①

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長

彦坂 誠

「自転車の交通安全について」

※10 ページの北海道ブロックでの講演録参照

## ■講演②

日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

「子どもを交通事故から守るために」

### 1. 子どもの交通事故被害状況

#### 世界の中の日本—交通事故死者数推移—

- ・わが国の交通事故死者数は減少している
- ・諸外国の中で日本の交通事故の死者数は少ない方。最も多いアメリカに比べると3分の1程度である

#### 子どもの交通事故死 ゼロ！

2019年 ノルウェーの子ども（16歳未満）の交通事故死 0人

日本の交通事故死者数

	2016年	2017年	2022年	国・県名	人口
0歳	3人	9人		ノルウェー	530万人
1～4	28	21		兵庫県	546万人
5～9	34	31		福岡県	511万人
10～14	26	15			
合計	91	76			

※平均3.7人（年）2009～2018年

- ・2019年ノルウェーが子供の交通事故死でゼロを実現した
- ・日本においては2016年には14歳以下が91人、翌年は76人であった
- ・ノルウェーの人口は兵庫県、福岡県と同じぐらいの人口規模。1件でも減らして、子どもの交通事故ゼロを目指していきたい

### 2. 子どもの交通安全教育の考え方

#### 【幼児期の安全教育 諸外国の例】

- ・イギリス「とまる、みる、きく」という、音も五感の一つとして大事にしている
- ・ドイツ「ゆっくり歩く訓練」として、どのように安全に歩くかについて注目している
- ・日本「とまる、まつ、みる」ということを念頭に置いて教えている

## 【歩行中の死傷者数（年齢別）】



⇒歩行中の死亡者数・死傷者数は、全年齢の中で7歳が突出している

## 【7歳の事故 課題と対応】

- ・就学前の家庭等における学習不足
- ・環境適用のための経験不足
- ・緊張感と慣れ
- ・形骸化した学習による応用力の問題
- ・教育と環境の不一致
- ・各家庭、商店などの交通空間への配慮不足
- ・障害のある子に対する合理的配慮の不足

## 【連続性のある交通安全教育】

家庭：しつけとして親子で→園や地域：地域の人、先生や友達とのトレーニング

→学校：安全教育・安全指導

⇒親子のしつけにはじまり、連続性を持って、先生や地域の人たちと一緒に繰り返しトレーニングしてることが重要。それが学校の安全教育につながっていく

## 【家庭で行う交通安全7か条】

1. 交通事故などについて話題にし、命を守るわが家の約束を一緒に決める。
2. 命の大切さを伝える。
3. 信頼関係を深め、愛情の絆を結ぶ。
4. 大切な子どもであることを伝える。

5. 約束や決まりを守る習慣をつける。

6. 身の回りの物を大切にすることを習慣をつける。

7. 家族や地域の人などにあいさつをする。

⇒我が子が大事な命をもっている大切な存在であることを伝える。その上でルールを守る大切さを理解させていく

### 3. 幼児期から児童期の子どもの発達と行動特性

#### 【幼児の行動特性に対する安全管理と教育】

- ・ 1つのもの、ことに注目する
- ・ 応用できない
- ・ 気分によって行動が変化
- ・ 抽象的な言葉は伝わらない
- ・ 大人に依存する・真似をする
- ・ 物陰で遊ぶのが好き

⇒危険を回避するため大人が先回りをして安全を確保するとともに、子どもとの約束や、発達段階に沿った教育が必要になる

#### 【児童前期の発達と行動特性】

- ・ 就学を機に一人で行動することが増える
  - ・ 友達と集団で行動するようになる
- ⇒集団登下校などでは、みんなといると安全な気がして注意散漫になることが多い

#### 【児童後期の発達と行動特性】

- ・ 集団で行動しているとき、わざと危険なことをすることがある、危険行動が目立つ
- ⇒道路で追いかけっこ、信号無視

#### 【障害特性と交通行動】

視覚障害：見えない、見えにくい、異なって見える

聴覚障害：聴こえない、聴こえにくい、発話困難

内部障害：心臓、腎臓、呼吸器など

発達障害：多動、読み書き苦手、コミュニケーション苦手など

精神障害：うつ、てんかん など

⇒外見だけでは気付くことが難しい、それぞれ特性に合った交通安全教育や対応が必要

#### 【合理的配慮の必要性】

まちの中にある様々なバリア（障壁）を取り除くことにより、障害のある人、ない人、どち

らにとっても過度な負担がかからず、不便にならない修正や変更、調整をすること  
⇒交通安全教育においても曖昧でない、具体的な伝え方、「やさしい日本語」で話すなど伝え方を工夫する必要がある。専門用語や難しい表現を用いず、平易で短い言葉で伝えると、障害のある子や幼い子でも理解しやすい

#### 4. 交通安全体験学習

##### 【安全なまちの歩き方：7ポイント】

- ・歩道の歩き方
- ・住宅地の歩き方、横断の仕方
- ・歩行者信号機のある道路での横断
- ・信号機のない横断歩道の渡り方
- ・駐車している車の間からの横断の仕方
- ・降りたバスの後方からの横断の仕方
- ・駐車場の歩き方

⇒交通安全学習として、実際に子どもと一緒に道を歩きながら、覚えさせたいことはその場所で教えるのが効果的

##### 【安全なまちの歩き方：教え方】

1. 保護者が子どもに、これからやってみることや目的を話して聞かせる
  2. 子どもの安全を確保した状況で、保護者が歩いて見せる
  3. 周囲の安全に配慮して、親子で歩いてみる
  4. 保護者が近くで見守りながら、子どもが一人で歩いてみる
  5. 「とまる・まつ・みる・わたる」の応用が必要な場所を歩いてみる
- ⇒保護者は子どもの歩き方の良い点、直すべき点を教え、反復トレーニングしながら行動の理由を子どもに聞くことも効果的

#### 5. 通学路の安全点検と盲点

##### 【交通3原則+1の具体化】

とまる：曲がり角の度に止まる習慣

まつ：1～2歩下がって待つ 歩道では歩道奥で待つなど

みる：「見る」でなく「視る」

わたる：青信号は赤信号のつもりで再確認、ドライバーとのアイコンタクト

⇒実際に通学路を親子で歩きながら、その場所ごとの危険や安全な歩き方を教えたり、話し合うことが重要

## ■活動事例発表

### 香川県交通安全母の会連合会 会長

#### 永峰 絹江

皆さんこんにちは。ただいま紹介いただきました香川県の永峰 絹江です。今日のご遠方よりありがとうございます。まず東香川交通安全母の会は、香川県の東の端に位置する人口28,000人、のどかな町でございます。東香川市は、一昨年9月25日から数えまして死亡事故ゼロは755日でございます。交通安全は日ごろ、団体だけではなく警察行政が情報交換をして三位一体となって連携し活動することによって成果に繋がると思います。東香川市交通安全母の会は死亡事故ゼロを目指して、立哨の継続や団体や行政等との連携活動など私達の交通安全活動の取組みと成果について本日発表したいと思います。

まず立哨の継続でございます。令和3年9月25日、その年初めて死亡事故が発生しました。引田庁舎前の国道11号を渡ろうとしていた高齢者が車にはねられ尊い命をなくされました。私はこの事故に衝撃を受けました。平成元年に同じ場所で二人の高齢者夫妻が亡くなられて、その通報とお世話を、通りがかった夫がしました。私はこのような悲惨な事故を無くすために対策として、毎日の立哨に踏み切りました。まず実践活動として夕方5時から6時の1時間を40日間事故現場に立ち続け、正しい横断歩道の渡り方の指導と反射材の配布をいたしました。この40日間の成果をお伝えしたいと思います。1、当初横断歩道を渡っていない歩行者が3日目には自ら渡るようになりました。2、横断歩道の手前で、信号がチカチカとした時に渡ろうとした高齢者の命を助けました。3、自動車が黄信号で停まるようになったことです。4、一緒に立哨に参加してくれる市民が現れました。5、東かがわ警察署長さん自ら立哨に参加して、交通指導あたってくださいました。6、自転車や歩行者に手渡した反射材を自ら着用してくださるようになりました。7、ありがとうとわざわざお礼を伝えに来てくれる市民が現れました。8、立哨以外の場所で、会った市民から「立っている姿を見て涙が出た。必ず交通安全を守ります」という声もいただきました。まさに立哨の継続は、一人一人の交通安全の力になっていると実感しているところでございます。

2つ目は行政との連携活動でございます。香川県知事へのヘルメット及びシートベルト着用の要望書8項目を提出させていただきました。1、ヘルメット推進のための補助金の創設。2、県庁職員や市町の職員、交通指導員へのヘルメット着用の推進で、まず県庁職員が模範を示していただくこと。3、ヘルメット着用推進のイベントの開催、4、小中学校の児童生徒へのヘルメットの被り方及びヘルメット内部のスポンジ廃棄の生徒がいますが、ヘルメットの正しい使い方、被り方の指導。5、中学校の時から高校生になってもヘルメット着用の指導をしていただくこと。6、高校生へのヘルメット無償提供の実施。7、積極的な交通安全講演会の実施など。これらは香川県知事から前向きに取り組んでいきたいとの返事をいただいたところでございます。

次に、香川県総合計画の見直しにかかる有識者懇談会において、1、ヘルメット購入の補助金制度の創設、特に65歳以上の高齢者です。2、企業や団体への働きかけを依頼。3、県

庁職員や市庁の職員、交通職員へのヘルメット着用の推進、4、ヘルメット着用啓発のイベントの開催、5、県内高校生への無償配布でございます。香川県知事や副知事さん、教育長、警察本部長、部局長と私達、医師会会長やNHK会長など有識者が3回にわたり協議をいたし、県議会に提出し決定することになっている状況でございます。

そして、次の活動としましては、東かがわ市長への提案書と対策です。1、ヘルメット購入にかかる新規補助金事業を提案させていただきました。2、東かがわ職員や交通指導員へのヘルメット着用の推進を依頼、今現在職員には部課長会で周知していただきまして、ほぼほとんどの人がヘルメットをかぶっていただいております。もう一方で交通指導員に関しては、市がおひとりおひとりに依頼をいたしました。3、ヘルメット着用啓発に関するイベントや講演会の開催を積極的に取り込む。これには私達市交通安全母の会と市行政が連携して今後これを開催するということを約束いたしました。4、小学生にデザイン性のあるヘルメットの着用を提案。これに関しましては、教育委員会が小学生にアンケート調査を実施していただきました。そしてこれに基づいて今後検討していくという段階まで入っているところでございます。

その次の活動でございます。警察との連携活動。これは毎月交通の役員会を開催しまして、交通課長、香川県警察本部交通企画課を講師に迎えまして県内市内の交通安全について学び、意見交換を実施して要望のあった個所の事故対策を実施いたしております。まず事故対策に例をお知らせしたいと思います。1、白鳥トンネル内において正面衝突がありました。これに関しまして多くの議論を重ねましてトンネルの出入口にこのようにライト点灯の看板を両側に設置いたしました。2、引田庁舎西側から国道11号線に出る時、建物があり右からの車が見えないという要望によりまして、前方にカーブミラーを設置し、今は十分に見える状態になり事故も無くなっているところでございます。3、つげの樹など道路に大きくはみ出して通行の妨げになっておりました。何十年もたったつげでございましたけれども、道路側の木を切って対応をしていただきました。4、高速道路から国道へ出るところの感知信号の感知が十分ではないという意見に対しまして、感知範囲を後ろに下げました。そして、さらに感知アームの調整を今後するところでございます。

次の活動でございます。交通安全標語ポスターの配布でございます。今年交通安全標語約2,000点の中から最優秀標語をポスター化し、約6,000枚を年代に応じて2枚を各自に配布して家庭で掲示し交通安全に役立ててもらっています。全体用としましては、「つけまいよ、命のタスキ、反射材」一般用としまして「いけるだろう、そんな気持ちが、命取り」小中用として「乗るまえに、大人も子供もヘルメット」保育園・幼稚園用「手を挙げた、小さな信号 見逃すな」。このように全体用と各学年用、世代用に分けて2枚ずつ配布し、そして各家庭の啓発に使わせていただいております。

最後でございます。子供の安全カード100を活用、推進させていただいております。NPO法人日本子どもの安全教育総合研究所の理事長様でいらっしゃる本日の講師宮田美恵子先生監修の「こども安全カード100」を市内全てのこども園に私達が配布しました。こども

園からイラストを拡大コピーして園児と一緒に交通安全を考え、クイズを投げかけて話し合いに使っています。園外に出る時に、かるたカードを使い、遊びの中で交通安全を学んでいるなどの活用が子供の安全や交通安全に貢献しているということをそれぞれの園から取材をさせていただきました。最後に東かがわ市交通安全母の会は今後も死亡事故ゼロ 1,000日を目指しまして立哨の継続、団体、行政、警察、地域が連携して交通安全活動に邁進していきたいと考えております。ぜひ会場のみなさんやご視聴のみなさんはぜひ何か一つでも皆さんの中で活動に取り入れていただければ、大変私達幸いと思います。どうもありがとうございました。

## 愛媛県 県民環境部 防災局 消防防災安全課 交通安全推進係 主事

### 井上 直哉

愛媛県 消防防災安全課の井上です。愛媛県交通安全母の会連合会の活動について発表いたします。まず愛媛県の交通事故状況についてご説明いたします。今年度は発生件数、死者数、傷者数の全てにおいて昨年より減少しています。一方で依然として高齢者に関わる事故が後を絶ちません。令和4年度中における交通事故死者数における高齢者の割合は、70.5%と全国平均の56.4%を大きく上回っています。中国・四国ブロックにおきましても9県の平均が65.5%と全国平均を上回り、高齢者に関わる交通事故防止は当ブロック共通の課題です。当連合会ではこの現状に関しまして、交通事故防止を繰り返し呼びかけることで交通事故のない、安全安心な交通社会の実現を目指して活動しております。

続きまして当連合会に関して説明いたします。当連合会は昭和54年に設立以降、各市町の交通安全母の会を基本単位として活動しています。会員数は約27,600人であり、交通安全は家庭からを合言葉に各地域における地元の特性に応じた交通安全活動を促進するため、各市町交通安全母の会の相互連携や交通安全教育機能の向上等を目的として活動しております。当連合会は県内に各20市町のうち10市町しか活動しておらず、今年度も2つの市で解散するなど活動団体の減少、規模の縮小などにより、活動が低迷化しています。そのため会員数の増加による活動の維持、活性化が喫緊の課題となっております。また現在活動している母の会会員の高齢化が進んでいます。先ほども申し上げましたが、愛媛県は高齢者に関わる交通事故の割合が全国平均を大きく上回っています。そこで高齢者向けの交通安全教育を実施し、母の会会員の交通安全意識の向上を促すことで地域の模範となって頂くことを目指しています。主な活動内容をいくつか紹介します。1つ目は高齢者事故防止対策事業です。県内各地域で講習会を実施しています。プログラムの例としては昨年度トヨタカローラ愛媛様、日本自動車連盟愛媛支部様ご協力のもと、交通安全講習会及びサポートカーを用いた交通安全体験会、「先進安全技術とサポートカーについて」という題目で専門的知見を有する自動車メーカーの担当者による講習会を実施しました。交通安全体験会ではパーキングサポートブレーキ、高度駐車支援システム体験、時速約5キロでの衝突疑似体験、運転の安心をサポートする装備や用品の体験といったコンテンツを体験していただき、



先進安全技術の学習を通して交通安全意識の向上、安全運転サポートカーの普及促進を図りました。高齢ドライバーの方は免許更新時以外にこのような交通安全講習を受けることはなく、参加者からは自分の運転に昔みたいに自信がないから、私達みたいな年寄りにこういう講習会は大変ありがたい、といった声も聞こえてきておりました。今年度につきましても昨年度と別の地域で講習会を実施し、より多くの母の会の会員の皆様に交通安全講習会を受講していただきたいと考えております。2つ目は女性交通安全ボランティアリーダー講習会の開催です。こちらは課題であります活動の低迷化を少しでも防ぎ、改善を図るため、母の会会員等の交通ボランティアに従事している方を対象に交通安全に関する知識、技能を習得していただき、各地のボランティア活動に役立てていただくことを目的として開催しています。今年度は愛媛県母の会連合会総会后、愛媛県警察本部協力のもと交通安全教育者を用いた体験型講習会を開催し、反射神経テストなど運動能力診断や自動車自転車シミュレーターによる交通安全教育を実施し、参加された母の会会員の皆様に本講習会で得た知見を各地域に持ち帰り、今後の交通安全活動に生かしていただくよう促しました。その他の活動内容は各市交通安全活動への参加があります。各市町単位での街頭での交通安全啓発活動や県による自転車の安全利用に関する各種啓発活動の参加も積極的に行っています。昨年度は県独自で毎月10日に設置している高齢者交通安全日である11月10日に県と山交交通安全母の会が連携し、高齢者層を中心に反射材用品を配布し、交通安全を呼びかけました。その他交通安全県民大会等の交通安全記念行事への参加や愛媛県交通安全母の会連合会総会、愛媛県自転車安全技能研究協議会、愛媛県交通安全総ぐるみ運動運営会議といった交通安全に関する会議等への出席、一県民一母親としての目線からの意見提言など各種活動を通して交通安全に関する啓発を行っています。以上で活動事例の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### **安芸地区交通安全協会 副会長 瀬野支部支部長**

##### **西佐古 信夫**

宜しくお願いします。こここのところ中四国を含めて災害が多く起こっています。交通安全は13年ぐらいなのですが、防災士もやっているの、そちらに結構時間がとられています。防災の件で一事例紹介します。この西日本豪雨で小学校の交通路が絶たれ、これに対する地域の要望を含め、2年間ほど従事し、子供たちが安全に通学できるようになったという事案です。西日本豪雨によって子供たちの通学路であった橋が流されました。それによってPTAから横断歩道に毎日立ってほしいと言われました。多忙なため断りましたが、とにかく安全な通学路確保のために私は現地に行って調査をしました。地域で力を合わせていかないと上手くいかなことですので、県警や安全協会や市役所等全ての人を巻き込んで、とにかくやりましょうということで始めました。行政に橋の仮設をお願いしましたが、予算がつかずかないませんでしたので、次のような他の方法を考えました。1、運送会社の敷地である道路を歩道として使わせていただいた。2、バイパスへのアンダーパスを利用して歩道を確保(簡

易舗装) 3、県警からも資金面の援助をしていただき、なんとか通学路を確保しました。橋が再建されるまでの2年間をこれでやり過ごしました。完成の暁には、警察の方にもお越し頂き、小学生と保護者の試し通行なども実施しました。

次に、日々の活動ですが 1、危ない交差点に立って交通指導。2、危ない個所に対して行政に改善要望を提出。3、交通死亡事故現場の立ち合い検証。4、小学生の自転車での安全な通行指導です。以上です。

## 徳島県交通安全母の会連合会 副会長

### 藍原 朱美

徳島県交通安全母の会連合会副会長の藍原です。徳島県愛住町交通安全母の会の活動について紹介します。愛住町は江戸時代から明治30年頃まで藍染が盛んであり、自治体において愛という字に由来する町は唯一愛住町だけだそうです。徳島県の中心部から約10キロという立地の良さ、そして町内全域が平地になっていることから徳島市のベッドタウンとして宅地開発が進み、人口35,000人と県下で5番目に人口が多い自治体となっております。そのため道路交通において、高速道路やバイパスが整備され、近年交通事故が減少傾向にある中で、本町では若干増加しているのが現状です。

愛住町交通安全母の会では、「交通安全は家庭から」を基本理念とし、交通死亡事故ゼロを目指し地道な活動に取り組んでいます。まず朝夕の立哨活動交通指導です。通学路において毎朝保護者が交代で立ち、ドライバーに歩行者や横断歩行者を保護する義務があることを周知・実践してもらうことを目的としています。園児児童が停止している車にありがとうの気持ちを伝えるため、お辞儀をすることでドライバーにも温かい気持ちが芽生え、その後も子供たちだけでなく、歩行者にやさしい運転を続けてもらえと思っています。さらにこのような優しい交通環境で育った子供たちは、将来優しいドライバーになってくれることを期待しています。

次に幼稚園に新しく入園する園児、小学校に新しく入学する1年生に交通安全用品を配布しています。子供の交通事故で最も多いのが新学期間もない時期に発生しています。このことに着目し、子供たちに交通安全啓発用品を配布することで、交通ルールと交通マナーの実践を心がけ、かけがえのない命を守ることを目的として実施しています。またそれを家庭に持ち帰ることにより、家族で交通安全について話をし、注意喚起できるものと思っています。今年も新入園児や新一年生に交通安全自由帳やクリアファイルを全部で862人に配布しました。板野町の道の駅は高速道路のインターに近く、四国88か所参りのお寺にも近いこともあり、休日には駐車場に県外ナンバーの車が多く見られる人気の道の駅です。そこでドライバーに事故防止を呼びかけています。大型量販店ゆめタウン徳島では交通事故ゼロを目指す日にキャンペーンを行いました。白バイやパトカーの乗車体験、県警音楽隊による演奏会なども開催され、用意していた600の啓発用品がほんの10分ほどで配り終えるほどの人気でした。また買い物客に交通安全の呼びかけが十分できたと思っています。

交通安全、マナーアップ県民運動では、愛住町合同庁舎前で愛住町のマスコットキャラクターあいのすけや愛住中学の交通部会の生徒が参加し、プラカードやのぼり旗を持ち、人の波キャンペーンを実施しました。またこの期間中町内の中学生 1,000 人にリストバンドの反射帯を配布し、夜間における交通事故防止、交通マナーの遵守を呼びかけました。

終わりになりますが、愛住町は平均年齢 44.8 歳、15 歳以下の子供が約 7,000 人で人口の 5 分の 1 と若い世代の多い町です。母の会会員も幼小中の保護者を中心として活動しており、近年では母親だけでなく、お父さんも多数参加していただいています。その結果、母の会という名称はどうなのだろうという声が聞かれることが現状です。母親である私達が中心となり、活動することが大きな意味を持ち、人の心に響くものだと確信しております。普通に生活していて外に出る限り、交通事故に巻き込まれる可能性は誰にでもあります。交通事故防止は一日してならず、日々の積み重ねが重要です。これからも「交通安全は家庭から」を合言葉に地域が一丸となり活動して行こうと思っております。ご清聴ありがとうございました。

## 高知県交通安全母の会連合会 副会長

### 宮本 典子

高知県交通安全母の会連合会 副会長の宮本です。宜しくお願いします。活動事例を發表します。例年秋の全国交通安全運動期間中に当連合会会長が市町村へ出向き、高知県知事から委託された「交通安全メッセージ」を伝達することにより、地域の交通安全意識を高めて交通事故防止を図るものです。令和 5 年度は県東部 奈半利町と県西部大月町に出向き、各町長にメッセージを伝達しました。次に交通安全キャラバン隊事業です。令和 5 年 9 月 22 日奈半利町町長へ交通安全メッセージを伝達しました。また令和 5 年 9 月 22 日園児による交通安全宣言もしました。令和 5 年 9 月 28 日に大月町町長へ交通安全メッセージを伝達しました。

活動事例 2 としまして、高知県交通安全母の会連合会として高齢者出前ふれあい事業です。高知県では例年 9 月 1 日から 12 月 31 日までの間、高齢者の交通事故防止を目的に「高齢者交通事故防止キャンペーン」が行われています。このキャンペーン期間中、当連合会では関係機関、団体と協力し日ごろ交通安全教育を受ける機会の少ない高齢者を対象に各地域の実情に即した啓発活動を行っています。令和 5 年度年内 11 地区で高齢者世帯への戸別訪問や年金受給日に各金融機関での啓発活動を行っています。それから、ふれあい事業ですが、写真の通り高齢者世帯訪問を 3 か所以上行っています。また自転車マナーアップキャンペーンやその他活動も交通安全期間中にやります。そのほか自転車マナーアップキャンペーンの啓発、春の全国交通安全運動の出発式、高齢者交通事故防止キャンペーンの開始式などを行いました。そしてこれから 10,000 人家庭訪問を活動として行っていきます。以上が高知県の発表でした。

## 山口県環境生活部県民生活課 主査

### 土橋 正践

山口県の土橋と申します。宜しくお願い致します。山口県交通安全母の会連合婦人会としまして、高齢者を中心とした交通安全活動について発表いたします。まず山口県の紹介です。山口県は本州の最西端に位置し、角橋大橋や秋吉台、元乃隅稻荷神社、下関の唐戸市場、瑠璃光寺五重塔など、絶景、おいしい食べ物と3拍子揃った魅力のある県です。一方で総人口に占めます65歳以上の割合が35.2%と全国平均の29%を大幅に上回ってしまっており、高齢化率全国区3位となっています。全交通事故死者に占める高齢者の割合も高く、令和4年では全交通事故死者数35人のうち、約7割となる21人の高齢者の方が交通事故で命を失われています。このような状況において山口県の高齢者の交通事故防止対策は喫緊の課題であり、全県をあげて取り組んでおります。

次に山口県連合婦人会についてです。山口県連合婦人会は地域婦人会の連絡調整を図り、女性の教養を高め、豊かな地域の発展並びに男女共同参画社会の構築に寄与することを目的として昭和28年1月25日に結成しました。県下の会員数は13都市4千人を超えております。連合婦人会の活動としまして、男女共同参画の実現や教育・子育て支援、消費者問題などの様々な活動を山口県交通安全母の会の名で活動しています。主に高齢者宅に対する戸別訪問活動、山口県知事のメッセージ伝達事業、高齢者交通安全教室の開催等を行っています。高齢者宅への戸別訪問ですが、高齢者の死亡事故が多発している現状を踏まえまして、警察官らと連携して高齢者世帯を訪問し、反射材の配布など交通事故に遭わないための具体的な指導を行うことにより、高齢者の交通安全意識の高揚と安全な交通行動の定着を目的に行っています。この行動は夕暮れ時が早まる、薄暮時間帯の交通事故多発が懸念されます9月から年末にかけて行っています。昨年は県下の約2,000世帯に対して訪問活動を行いました。お巡りさんと一緒に母の会の会員がしっかりお年寄りの話に耳を傾けます。皆さん笑顔で迎えてくれます。

次に高齢者交通安全教室の開催についてです。高齢者は視力や注意力も下がりがちになり、夜間や薄暮時には車が見えにくくなります。また運転時も同様です。ここで交通安全教室を開催して、交通事故に遭わない、起こさないための啓発と交通安全意識の高揚を図り、交通事故を未然に防ぐことを行っています。昨年は県内4ヵ所で教室を開催し、約150名の高齢者の方が受講されました。また今年の9月21日に山口県庁で行われた秋の全国交通安全運動で、今年の4月から全年齢におけるヘルメットの着用が努力義務化されたことを受け、ヘルメットファッションショーを行いました。会場に敷かれたレッドカーペットの上を会員さんがモデルになりましてノリノリで歩いていました。県内のヘルメット着用率は、先般の警察庁の発表によりますと21.5%、全国8位という順位でしたが、1位の愛媛県の59.9%に比べて決して高くなく、楽観視できない状況です。訪問活動においても被りやすいヘルメットのデザインがない、という意見が聞かれますが、このファッションショーで紹介した、おしゃれなデザインなら着用率も上がるのではと思っております。

最後に今年の1月で山口県連合婦人会は結成70周年を迎えました。結成以来、暮らしの安全や環境保全活動など幅広く地域作りの一翼を担って参りました。一方今日では人口減少やデジタル化など社会環境が目まぐるしく変化する中で、地域社会における連帯感の希薄化など様々な問題が生じています。また近年の新型コロナウイルス感染症の拡大は、命の尊さ、人と人との絆、地域活動の重要性を再認識させるものとなりました。こうした中で連合婦人会は70周年を迎えるにあたりまして、これまで培った絆と地域で活動する婦人会目線を大切に誰一人取り残されない持続可能な社会の実現を目指し、思いやりの心で活動に輪を広げて次世代に繋げて参ります。ご清聴ありがとうございました。

## 出雲市交通指導員

### 鎌田 章男

島根県出雲市交通指導員 鎌田 章男です。私の住んでいる四絡地区は、人口12,000人で地区の中に国道9号線バイパスが通っている都市化進行中の町です。私はその四絡地区で24年間交通指導員として活動して参りました。また交通指導員のほかにも地区の交通安全対策協議会、交通安全協会役員、防犯パトロール隊など地区の交通安全防犯関係の活動もしております。本日は今年度の私の活動状況を発表します。

まず毎月1日の交通安全県民の日や、月の真ん中15日は朝7時半から近くの交差点で立哨し、通学する児童の交通誘導を行っております。横断歩道で待っている子供たちにはおはようございます、と声をかけ、指揮棒を持った左手を高く上げて車を止め、安全を確認してから渡ってまいります。子供たちの中には手を挙げずに渡る子もいますが、手を挙げて渡りましょう、と声掛けをします。子供たちの、おはようございます、の声が返ってくると元気が出ます。遅れてくる子供たちもいますが、まだ時間があるからね、と気を付けてね、と声をかけて見送ります。立哨は登校する子供たちがいなくなる8時ごろには終了します。また他にも四絡防犯パトロール隊、隊員約40名として月に1回30分程度地区内をパトロールし、無灯火、通行帯違反などの自転車に対して声をかけ、安全に通行してもらうようお願いしています。

今年の5月11日から20日に実施された、春の交通安全運動では子供たちが登校しない土曜、日曜祝日以外は毎朝立哨をしました。運動期間中、四絡小学校では4年生約60名の自転車教室が開かれました。警察の方と一緒に自転車の乗り方、点検方法、実技では交差点の渡り方、スタートストップ、Sの字、8の字コースをそれぞれ4班に分かれて期間を決め練習をしました。自転車に乗れない生徒もいましたが、友達が後ろから支えるなど協力して取り組む姿はとても微笑ましい光景でした。また四絡幼稚園でも警察署、交番の指導の下交通安全教室が開催されました。講堂でビデオ鑑賞、横断歩行の実技指導をしたのち年中組、年長組は小グループに分かれ、園周辺を歩き、歩行練習をしました。練習中に事故が起きないように私や警察官が分かれて信号、交差点等に配置し指導をしました。園に帰ってからはそれぞれが気付いたことを意見交換し、およそ2時間半で交通安全教室を終えました。

7月には交通指導員総会が出雲市役所で開催され、令和4年度事業報告決算報告をし、承認を得ました。7月から8月の夏休みに入った日曜日には早朝サイクリングを今年は3回開催され、朝7時半からラジオ体操、自転車の乗り方を学習したのち、40名近くの親御さんの参加で出雲市体育館亀山公園、最終日は近くの寺院で和尚さんの講話を聴き、座禅を組み、呼吸を整え10分ほどで終了し、お礼を言って帰途につきました。全日程に参加された方には皆勤賞が渡されました。8月5日土曜日には出雲ドーム祭りが4年ぶりに開催され、13時から21時まで野菜販売、子供神輿、斐川よさこい祭り、抽選会とそれぞれの担当が会場の準備後片付けなどを行い、大人、子供大いに盛り上がった一日でした。

9月に入ると秋の交通安全運動が9月21日から30日まで実施され、交通指導員、地区の交通安全関係の役員さんが期間中町内のカーブミラーの点検掃除、交通安全立哨など街頭啓発活動を実施しました。10月も四絡幼稚園の交通安全教室を行ったほか、出雲全日本大学駅伝大会に交通指導員として出動し、交差点で誘導を行いました。以上で私の活動報告を終わります。

## ■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

宮田先生：7組の皆様、ご発表頂きましてありがとうございます。本当に聞き入ってしまいました。共通していることは、本当に引き続き各地域の皆さんの熱意ある取り組みと継続する力と協力する市民の方々や警察や市役所方々の協力体制が実に上手くいっていて、それぞれのオリジナリティ溢れる発表でした。私も聞きたいことが沢山あるので是非お聞きしたいと思います。それでは会場でご参加されている方、ZOOMでご参加いただいている皆さんは何かご質問やご意見はありますでしょうか。どんなことでも結構です。何かありますか。

●：愛媛県の方にお聞きしたいのですが。ヘルメットの着用率が高いということで、高知県は13%ぐらいなのですが、どのようにしたらヘルメットの着用率が上がるのかと思ひまして。

●愛媛県母の会連合会です。2013年に愛媛県は条例で全国に先駆けてヘルメットの着用を努力義務ですが制定しましたが、中々それだけでは浸透しないため、平成27年度から平成29年度まで県内すべての県立、私立、国立の高校でヘルメット着用を校則で規定しました。学校関係者、教育委員会の協力を得てヘルメットの助成を行いましたところ、高校生の着用率が一気に上がりました。現状の愛媛県の着用率の上昇はひとえに中高生の着用率に支えられているといえます。それにつられて大人や高齢者の着用率も上がっていますが、まだまだ中高生に比べると低いのでそこが今後の課題です。

宮田先生：高知県の皆さんいかがですか。

●：私達も色々努力して着用率を上げようとしています、私の近くの高校ではゼロですので、今度県知事にも行って働きかけをしてみます。

宮田先生：高校生の校則にしたというのが大きかったのでしょうか。それにつられて大人も着用するようになったというのがポイントですね。他にこのヘルメット着用に関してご意見はありますか。高知、愛媛の皆さんありがとうございました。他いかがでしょうか。

●：香川県交通安全連合会です。先ほどのお伝えしましたが東かがわ市は死亡事故ゼロ 755 日です。しかしながら香川県としましては、まだまだこれからです。今日は 8 市 9 町から代表の会長が来ているので、意見交換をしながら香川県も前向きに行きたいと考えています。先ほどのヘルメットの件ですが、香川県は本当に着用率が低いところではあります。私は企業を回ってヘルメット着用の協力をさせていただいています。成果が確実に上がっております。私は香川県では全員ヘルメット着用するように働きかけ、命を守りたいと思います。また海外のように教育の中に交通安全を組み込むべきと考えます。香川県はシートベルト非着用率が 0.9%です。今後はシートベルトの厳罰化をして多くの命が助かるのではと考えます。また多くの人と知恵を出し合うことが今後の交通安全にとって必要ではないかと思えます。本日は多くの方が参加されているので色々なことを是非教えて頂きたいと思えます。

宮田先生：非常に力強いお言葉ありがとうございました。企業にアプローチして成果が上がっているのは驚きでした。岡山の方、手があがっていたようでしたがどうですか。

●：岡山県交通安全母の会です。ヘルメットの件ですが、岡山県では中学生は比較的被っているのですが、小学生が全く被っておりません。家庭によっては 2~3 個用意しないとならないことになるので、自治体とかで何か考えてもらえるものではないでしょうか。

宮田先生：各家庭で数個用意するとなると負担も大きいということで何か良い購入方法があるのか、という質問ですね。自治体で助成している地域もあったようですが、何か回答頂ける方いらっしゃいますか。香川県の方いかがですか。

●：まんのう町交通安全母の会です。私達の町では、小学校 3 年生の終わりに自転車教室があります。その時に町からヘルメットが配られます。それを中学 3 年まで被ることになります。しかし、高校生、大人になると被らなくなりますのでそこが課題です。

宮田先生：小学 3 年生の時に配られて、3 年間だったとしても動機づけになりますね。岡山の皆さんはいかがですか。

●：やはり自治体をお願いするしかない、ということですね。働きかけしてみます。

宮田先生：もう少し皆さんに聞いてみましょうか。自治体から助成を得られる良い方法はないでしょうか。

●：徳島県です。徳島県では 85 歳以上の高齢者、上限を超えない場合は半額の助成をするというのが、先日議会を通ったということです。安全マークの付いたヘルメットに対してということです。

宮田先生：全額負担ではなく、一部負担をお願いしてみるという切り口ですね。岡山の方、いかがでしょうか。

●はい、わかりました。ありがとうございました。

宮田先生：他にいかがでしょうか。香川県の方をお願いします。

●：市長や県知事にも補助金の要望を提出しましたが、補助金だけでは難しいと思います。補助金だけに頼らず、色々な働きかけをやってみないとならないと思います。中学校からヘルメットを被ってもらえるような教育をすることは重要です。また高校に出向いて生徒、先生と話をしてみたり、ポスター、チラシを作ってすべての幼稚園、保育園、学校に配布したりしました。

宮田先生：後でチラシを見せていただけますか。ありがとうございました。他にありますか。

●：東かがわ市の事例発表の中に「子供と安全カード100」というものがありました。宮田先生が監修されているということなのでもう少し詳しく教えて頂けませんか。

宮田先生：この「子供と安全カード100」は、まず交通安全、保健、事故、防犯防災などの様々な危険に関して就学前の子供と親に知っておいてほしいことをまとめているものです。その他何かご意見ある方いますか。

●：広島的女性会連合です。私の2人の孫が青信号を緑信号と言っています。私達の世代は青信号と言っていましたが、今は変わってきています。ここは子供たちが言うように緑信号に統一したらいかがでしょうか。

宮田先生：子供たちは様々なことに疑問を持っています。ネーミングは非常に大事で、呼び方は意識を変えるものですし、やはり伝わらないと意味がないので実際の動きに変えていくことは非常に重要だと思います。今の件で何かありますか。あるいは他に気づいたことがあるとか。それではないようなので、私の方から講評をさせていただきます。

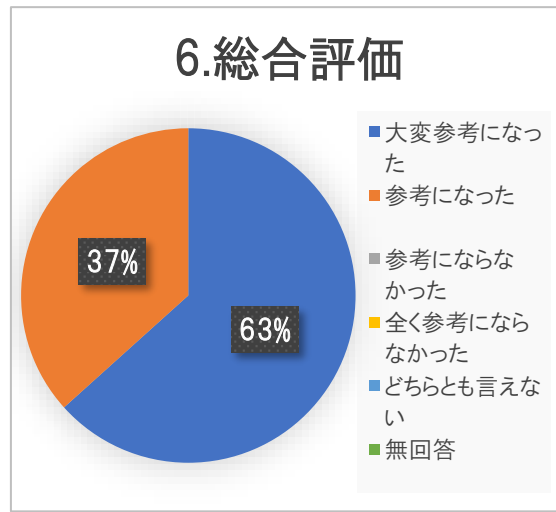
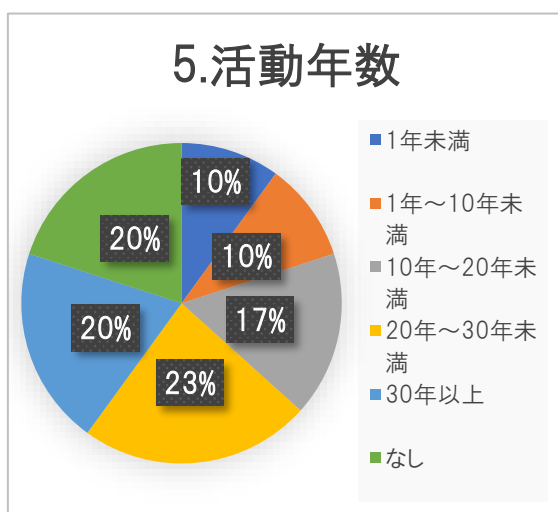
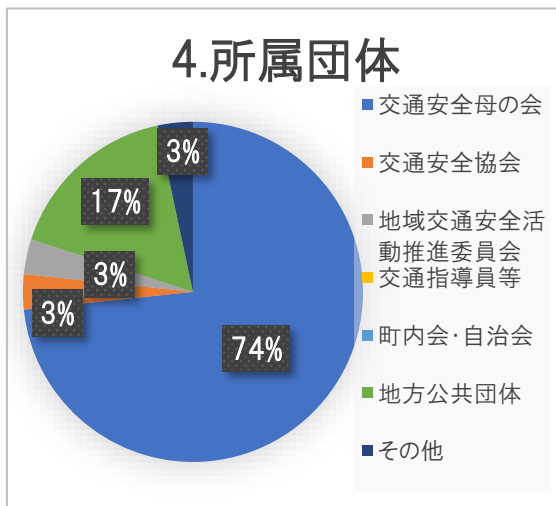
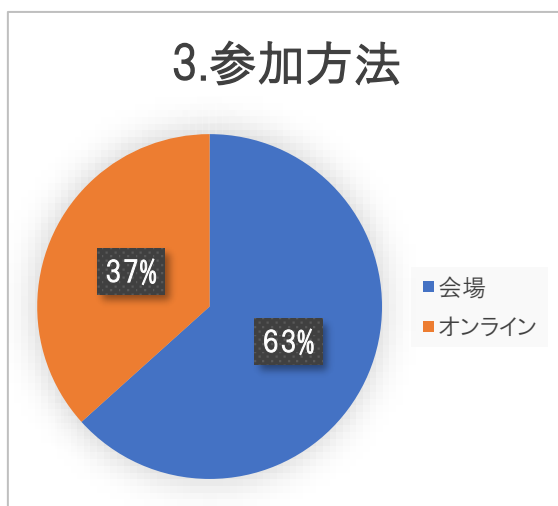
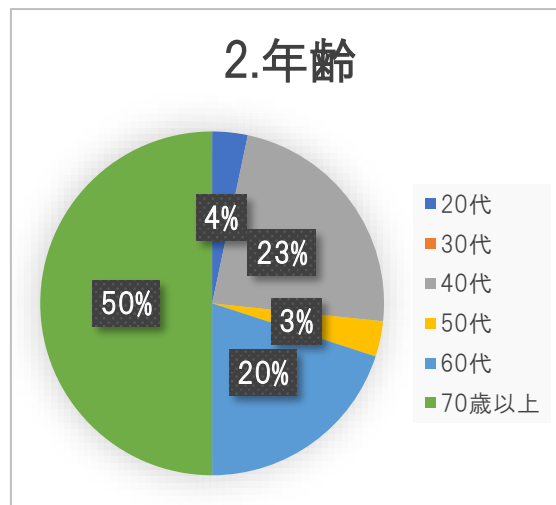
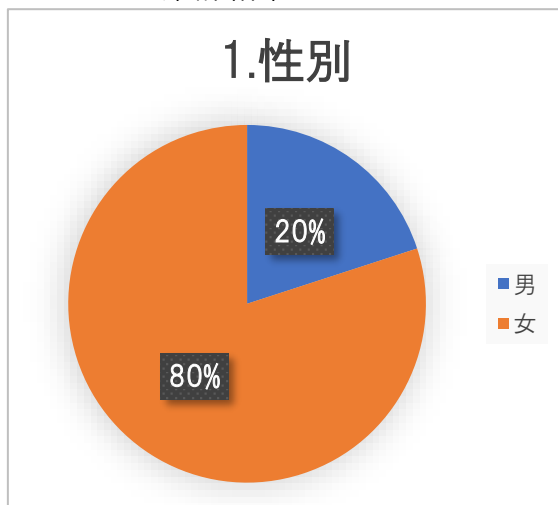
## ■講評

今日は本当にありがとうございました。特にヘルメットに関しては重要な議論ができたな、と思っております。実際に役立つご意見を沢山いただきました。ありがとうございました。本日は7県の方から発表いただきました。まずは香川県ですね。本当に課題に対して体を張って向き合っており熱心なリーダーの姿を拝見いたしました。成果という点では、皆さんが見本を見せることによって影響を受ける人たちが変わった、という手ごたえがあったということは本当に素晴らしいことです。感動しました。次に、愛媛県から発表頂きました。多くのところで抱えている、高齢者の事故についての課題というお話がありました。またそれに携わる会員の数も減少という課題も全国の多くのところで抱えている問題です。高齢者の交通安全教育に非常に力を入れて集中していらっしゃるということですね。その中でサポートカーの体験会を実施していると、体験してもらうことは非常に重要なことです。先進的な技術を見せることは高齢者の方々には力になる取り組みだと思います。ありがとうございました。広島県の発表ですが、日本は災害の多い国ですが、そんな中で子供たちが普段使う通学路が被災されたということで、市民の方が力を合わせて安全な道を作られたというのは、素晴らしい力のある仕事をされたんだなと思って本当にびっくりしました。こ

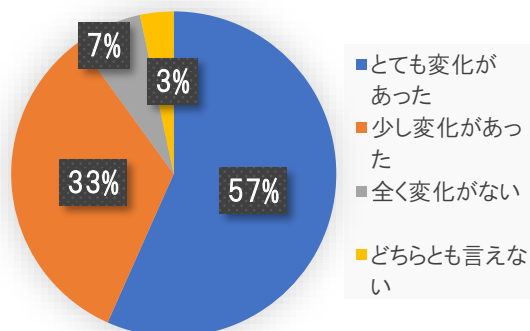


れだけ大きな仕事をされている中でも日常活動も欠かさずされていたことも素晴らしいと思いました。徳島県の発表です。「交通安全は家庭から」というテーマで、私も今日同じテーマで話をさせていただきましたが、現在保護者の方々が立哨等になかなか参加できないという状況の中、保護者の方が積極的に参加されているということが本当に素晴らしいと思います。ありがとうという言葉がドライバーにも伝わっているということは本当に良い効果ですね。優しい交通環境という言葉がありましたけど、まさにそれを実現されているな、と感じました。ありがとうございました。また母の会のネーミングについてもありましたけれど、時代と共に変化していても良いのではと、先ほどの信号機の色の話もありましたけれども、昨今父の参加が多い中、このままでよいのかと問いも投げさせていただきました。今後ネーミングが変わったら是非教えてほしいと思いました。それから高知県の発表も素晴らしかったです。高齢者 10,000 人の家庭訪問ということですが、10,000 人の家庭訪問というのはなかなか大変なことだと思いますが、足で回られる姿が本当に見えるようで、訪問された高齢者の方々は本当にうれしいだろうなと思いました。山口県の発表も高齢化のことを課題として上げられていました。こちらも戸別訪問し、交通安全教室も開催され 150 名が参加されたとのこと。そしてすごいなと思ったのはヘルメットのファッションショーですね。ご自身仕様にアレンジしたヘルメットをノリノリでモデルになっている方々の笑顔がとってもいいな、と思い素晴らしい活動だと思いました。島根県の発表も素晴らしかったですね。年少さんに歩行練習を 2 時間半やられたということでした。すごいことだと思います。よく飽きさせないで集中させてやられたと思います。きっと大人たちが熱意や思いを持って伝えると子供たちも吸収しようと集中されていたのだと思います。このように指導ができる皆様の姿を思い浮かべて本当に感心しました。皆様のお話を聞いて、色々なアドバイスを頂いて私としても本当に勉強になりました。また皆様の姿に改めて敬意を申し上げたいと思います。これからもぜひお身体に気を付けて、健康は第一ですので、もちろん安全もですが、健康と安全を第一に楽しみながら是非見せる交通安全活動というのをこれからも続けていただけましたら、次世代の子供たちも育っていくと思います。どうぞよろしくお願い致します。

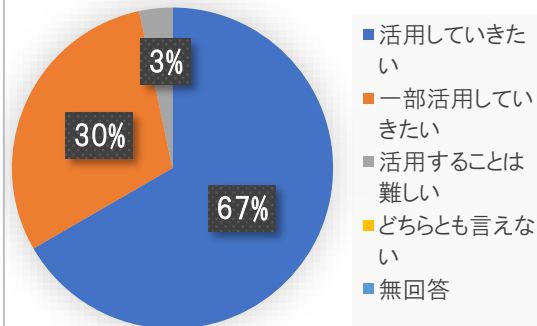
### 3.アンケート集計結果



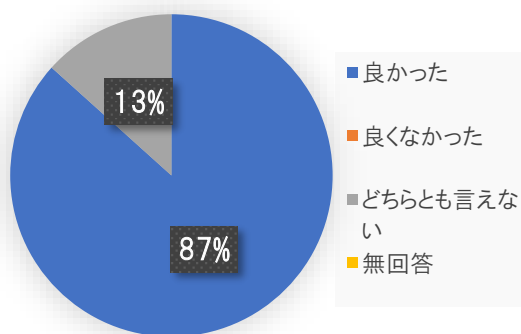
## 7.意識の変化



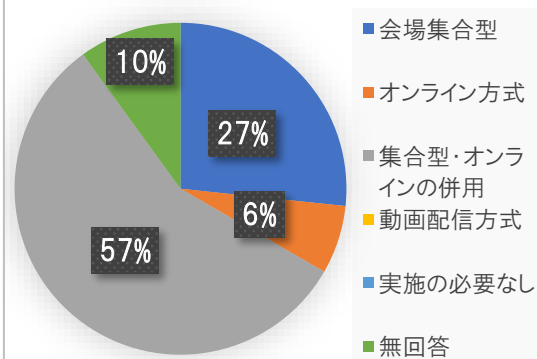
## 8.講義内容の活用



## 9.実施方法



## 10.来年度の実施方法



### ⑪今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・ヘルメット着用促進に向けた取り組み
- ・学校と保護者の取り組みについて（当学校はあまり通学路について関与しないため）
- ・該当指導に関してもっと踏み込んだことを実施指導したいが、歯止めが問題なので方向性を議論したい
- ・高齢者運転：パーキングサポートブレーキ。高度駐車場支援システムへの理解。子供等：自転車ルール
- ・やはりヘルメット等、取り上げてほしいと思います
- ・各県、各市町で独自に取り組んでいるもの（効果があるもの、または失敗したもの）\*特に高齢者事故防止関係
- ・高齢者の自転車教育

- ・ヘルメット推進活動事例と効果
- ・交通指導等、警察の方に正確な指導のやり方等を指導していただければ
- ・視覚聴覚障害児童（入学前）に対しての交通安全教育の仕方やり方を聞かせてほしい
- ・自転車、ヘルメット
- ・電動キックボードあるいはアシスト自転車等、交通状況に則した話題を取り上げてほしい。今回は今まで通りの話で残念でした
- ・自転車の安全で適正な利用の促進について
- ・自転車を使用することに関しての心がけ、法令、暗線、技術等を高齢者、子供向けに

⑫本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・Zoomでの研修会の実施
- ・県女性連合会が行う事業は地域の交通安全協会と行っているが科学的な知識を得る機会がほしい
- ・定期的にこのような講習会が必要だと思います
- ・体験型も取り入れた研修会もできればと思います（例：ヘルメット着用ファッションショー）
- ・実技指導などが必要ではないか
- ・もし可能であれば、海外での好事例紹介を聞いてみたい
- ・交通安全政府の見解、政府の参加、政府への活発
- ・積極的にボランティア活動に参加するとおのずと学習でき、広く多くの人に伝えようとするのが大事
- ・宮田先生の【安全なまちの歩き方】をもっともっと多くの人に伝えたい

⑬本講習会の運営、スタッフについて

- ・とてもよかったです
- ・ご丁寧に対応いただきました。ありがとうございました
- ・タイムスケジュールの在り方
- ・彦坂さん、宮田先生の講演よかったです。参加してよかったです
- ・とても内容のある会であった
- ・良かったのではないのでしょうか
- ・スムーズにできていた。とても分かりやすかったです。参考にします
- ・良かった
- ・彦坂先生の講義の資料が裏表になって見にくかった。次はきちんととじてほしい
- ・良かった。スムーズに進行されていた
- ・対応は意見無いが交通にかかわる団体が運営したほうがさらに良くなると思う

- ・きめ細かく丁寧に対応いただきました。ありがとうございました
- ・もう少し早く細かい日程内容等のお知らせがあるとよかった
- ・親切丁寧な対応に心より感謝です。ありがとうございました

#### ⑭その他ご意見

- ・お世話になりました
- ・保育園児：緑信号、昭和の子供：青信号 統一緑信号！法改正を
- ・中四国なのでもっと多数の方の参加があると良かったなと思った
- ・集合型+オンライン併用で研修会も大変意義あると（今風であり）考えます
- ・Zoom の操作がぎこちなく、もたついていた
- ・カメラの具合により、顔出し対応できず申し訳ありませんでした
- ・交通安全母の会の活動発表であるが、もう少し多くの母の会の発表があれば良いのではないか
- ・自転車の安全利用の話は分かりやすく、ヘルメットのこと等よくわかりました。地区コミュニティ等でこの資料を見ながら研修したいと思いました
- ・時代遅れですみません。オンライン参加という経験は初めてで戸惑うばかりでした。長時間画面を見てとても疲れました。各県の発表が参考になりました。ありがとうございました
- ・各地域の取り組みがわかって参考になった。活動の参考にしたい
- ・四国は交通状況が車での移動をせざるをえないので交通費支給の方法を距離で計算する方法を取り入れていただきたい
- ・他県における取組が非常に参考になりました
- ・以前のように現地に行って、直接会員同士で意見を交換できるほうが望ましい。高齢の方にはオンラインは難しい面が多いと思います
- ・ありがとうございました
- ・自転車の死亡事故はヘルメットの着用率だと改めて必要性を感じました。子供たちから学ぶこともあるので大人から率先して活動ができるようになるといいなと思いました
- ・活動についても地域性があると思いますが、できることから活動できれば良いなと思いました。ありがとうございました

#### 4.写真

【中国・四国ブロック】



講演 彦坂先生



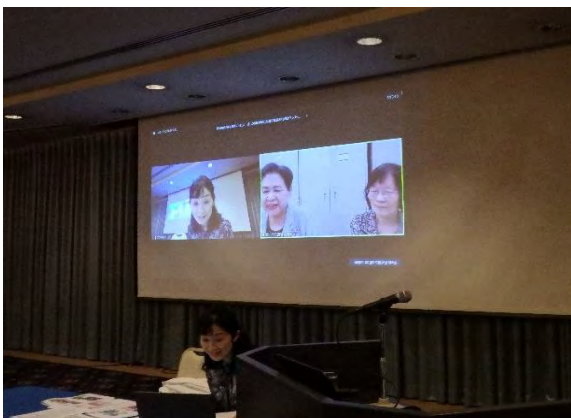
講演 宮田先生



活動事例発表



活動事例発表



意見交換会



意見交換会